

航空自衛隊の概要 2026

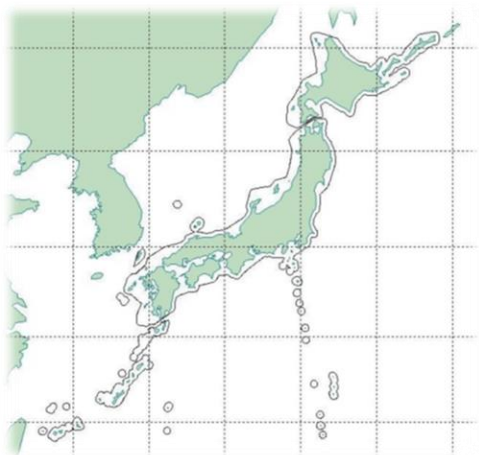


JASDF
Japan Air Self-Defense Force



航空自衛隊 ～空と宇宙を守る唯一の組織～

航空自衛隊が「守る」領域



領土・領海・領空



宇宙・サイバー・電磁波

航空防衛力を構成する主な部隊



戦闘機部隊



航空警戒管制部隊



地对空誘導弾部隊



宇宙領域専門部隊



航空輸送部隊



航空救難部隊

日米同盟



各国との防衛協力・交流



隊員の活躍



内 容

- I 我が国を取り巻く安全保障環境
- II 航空防衛力の意義、航空自衛隊の任務等
- III 防衛力の抜本的変革へ向けた取組
- IV トピックス



I

我が国を取り巻く安全保障環境

- 1 現在の安全保障環境の特徴
- 2 我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況
- 3 我が国周辺の安全保障環境



1 現在の安全保障環境の特徴

- 力による一方的な現状変更やその試みは、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序に対する深刻な挑戦であり、国際社会は戦後最大の試練の時を迎え、新たな危機の時代に突入しつつある
- 科学技術の急速な進展が安全保障のあり方を根本的に変化させ、各国はいわゆるゲーム・チェンジャーとなりうる先端技術の開発を行い、従来の軍隊の構造や戦い方に根本的な変化が生じている
- サイバー領域などにおけるリスクの深刻化、偽情報の拡散を含む情報戦の展開、気候変動などのグローバルな安全保障上の課題も存在
- サプライチェーンの脆弱性、重要インフラへの脅威の増大、先端技術をめぐる主導権争いなど、安全保障の対象が経済分野にまで拡大



出典:AFP通信

ロシアのクルスク州を訪問したプーチン大統領



出典:AFP通信

ウクライナ保安庁が公開した「オレシュニク」の破片



出典:中国軍東部戦区

中国軍が公表した台湾周辺での演習区域



出典:朝鮮中央通信

「新型多目的駆逐艦」から各種ミサイルの試験発射を実施した際に北朝鮮が公表した画像



出典:NATO HP

NATOサイバー演習の様子



1 現在の安全保障環境の特徴

中露の示威活動



共同航行



共同飛行

ロシアは活発な活動を継続

新型の装備を極東にも配備



ステレグシチーⅢ級
フリゲート
2020年、太平洋艦隊
に配備



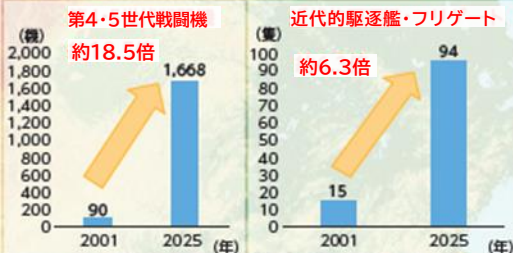
地对艦ミサイルシステム
「バステオン」
2022年、千島列島の
幌筈島に新たに配備

北朝鮮の核・ミサイル開発



- ・06年に初めて核実験強行。以降、計6回の核実験
- ・長射程化や変則軌道での飛翔など、ミサイル技術を高度化
- ・2017年に核武力の完成を主張
- ・引き続き核を含む各種兵器の計画的な開発を継続

中国による軍事力の 広範かつ急速な変化



北方領土問題

中国による活発な
日本海への進出

竹島をめぐる
領土問題

朝鮮半島を
めぐる問題

中国による
東シナ海における
力による一方的な
現状変更の試み／
活動の急速な
拡大・活発化

台湾をめぐる
問題

中国による活発な
太平洋への進出

南シナ海をめぐる
問題

我が国周辺では、軍事力の強化・軍事活動の
活発化の傾向が顕著

「インド太平洋地域は、安全保障上の課題 が多い地域」

- 核兵器を含む大規模な軍事力を有し、普遍的価値やそれに基づく政治・経済体制を共有しない国家や地域が複数存在
- 歴史的な経緯を背景とする外交関係などが複雑に絡み合う地域
- 東シナ海、南シナ海などにおける、力による一方的な現状変更の試み、海賊、テロ、大量破壊兵器の拡散、自然災害などの様々な種類と烈度の脅威や課題が存在



沖縄・宮古島間を通過した中国軍の偵察／攻撃型無人機
(2025年4月)



1 現在の安全保障環境の特徴

ロシアによるウクライナ侵略

- 2022年2月24日、ロシアはウクライナに対する全面的な侵略を開始
- 武力の行使を禁ずる国際連合憲章を含む**国際法の深刻な違反**
- 力による一方的な現状変更は、**国際秩序の根幹を揺るがす行為**
- このような侵略を容認すれば、アジアを含む他の地域においても力による一方的な現状変更が認められるとの誤った含意を与えかねない



イスラエル・パレスチナ情勢

- 2025年10月10日、イスラエルとイスラム組織ハマスとの間においてガザ停戦発効
- 2025年10月19日、イスラエル軍はパレスチナ自治区ガザの各地を空爆。イスラエル軍は再び停戦の履行を開始したとしているが停戦の維持は予断を許さない情勢
- 2026年1月15日、トランプ米大統領が暫定統治機関「平和評議会」を発足

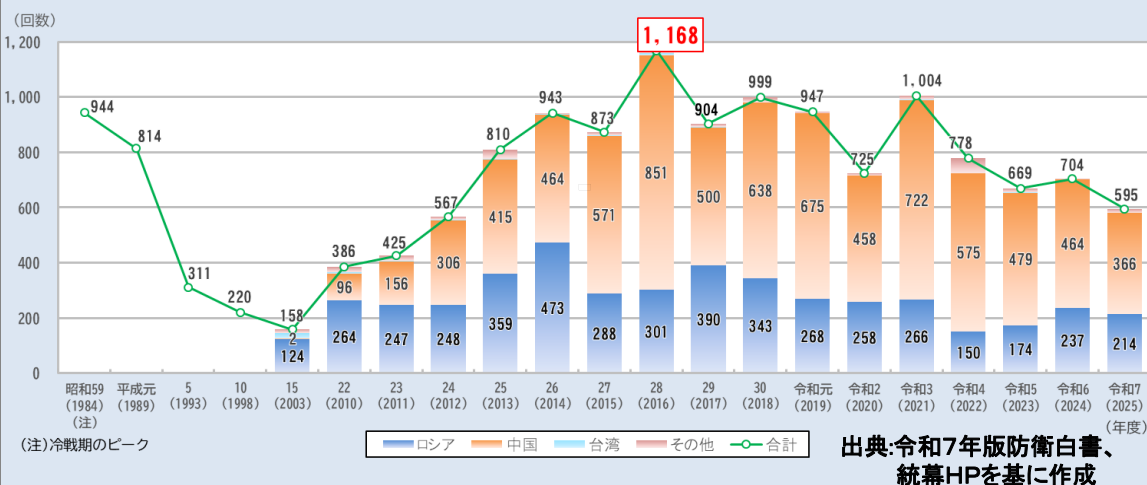


2 我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況:「空」緊急発進

➤2025年度の緊急発進回数は**595回**

➤**2013年度以降、年度全体の緊急発進回数は概ね600回を超える高い水準で推移**

冷戦期以降の緊急発進実施回数とその内訳



中国機

戦闘機

J-16



(2025年12月29日撮影)

情報収集機

Y-9



(2025年12月29日撮影)

無人機

TB-001



(2025年4月24日撮影)

爆撃機

H-6



(2025年12月29日撮影)

ロシア機

戦闘機

Su-30



(2025年12月9日撮影)

情報収集機

IL-20



(2025年10月29日撮影)

爆撃機

Tu-95



(2025年12月9日撮影)

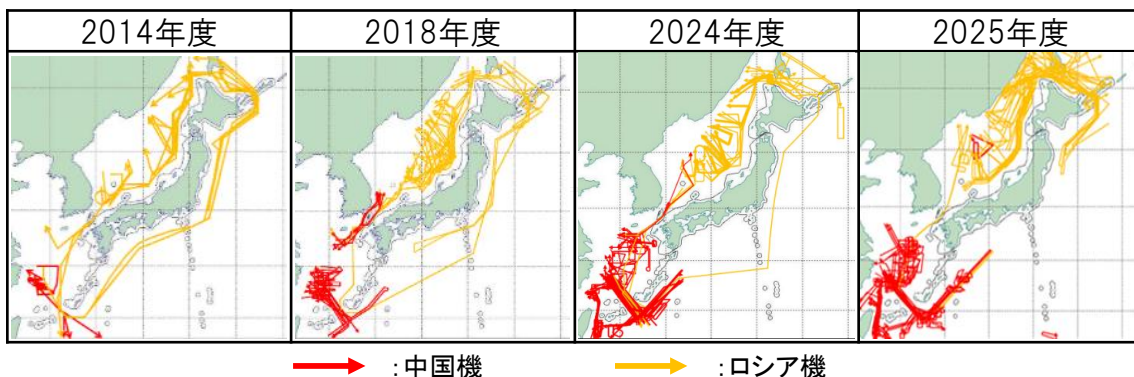
早期警戒管制機

A-50



(2025年12月9日撮影)

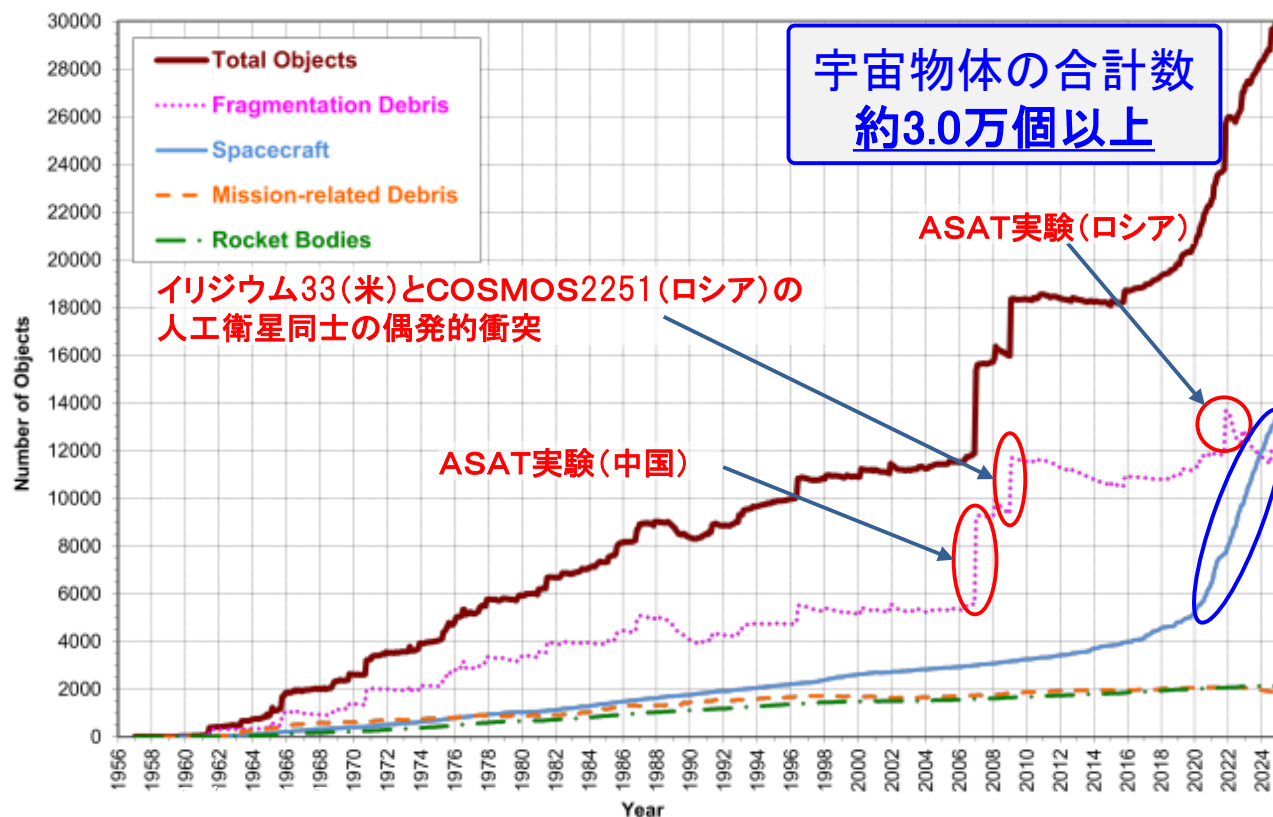
緊急発進の対象となったロシア機及び中国機の飛行パターン例の推移





2 我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況:「宇宙」利用の拡大

- 通信、測位、気象等の宇宙システムは、**経済・社会活動において重要なインフラ**であるとともに、陸上、海上、航空、統合のすべての作戦において、**指揮統制や装備品等の能力の最大発揮に不可欠**
- 主要国は、C4ISR機能の強化などを目的とし、情報収集衛星、早期警戒衛星、測位衛星、通信衛星など、各種衛星の能力向上や打上げに注力
- 一方、他国の宇宙利用を妨げる**対衛星兵器(ASAT)**も開発され、中国とロシアの自国衛星を標的とした破壊実験によりスペースデブリが多数発生
- さらに、宇宙システムへのサイバー攻撃など、**宇宙空間の安定的利用に対するリスクが増大**
- 各国は、宇宙アセットへの脅威を監視する**宇宙領域把握(SDA)**に注力



民間事業者による多数の小型衛星の
打上げ(衛星コンステレーション)

- ・C4ISR: Command, Control, Communication, Computer, Intelligence, Surveillance and Reconnaissance
- ・ASAT (Anti-Satellite Weapon): 対衛星兵器
- ・SDA (Space Domain Awareness): 宇宙領域把握
- ・衛星コンステレーション: 多数の衛星を軌道に配置し、一体的に運用するシステム

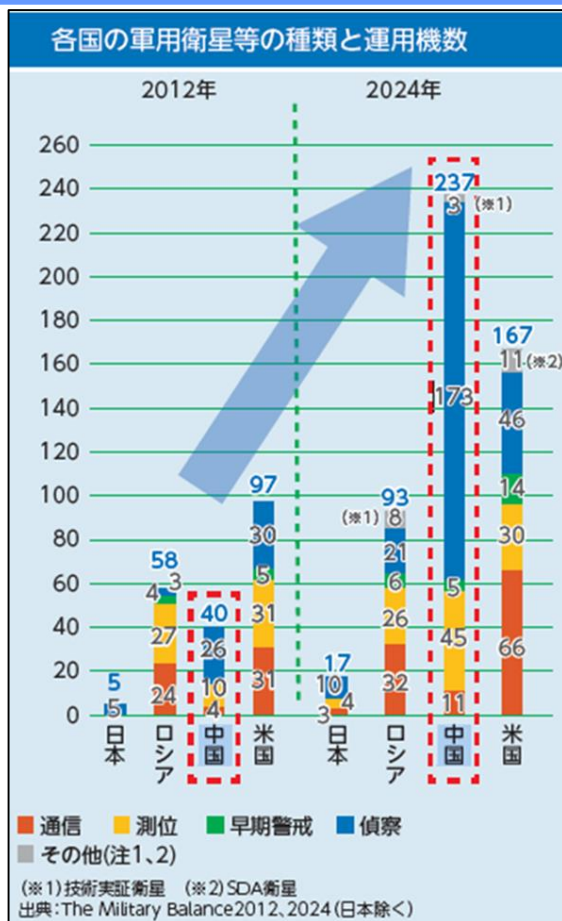
コンステレーションは英語で「星座」の意味

(出典) NASA: Orbital Debris Quarterly News Volume 29, Issue 1



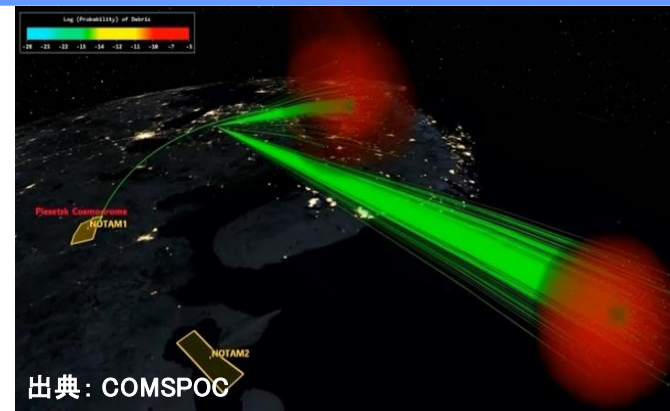
2 我が国を取り巻く「空」と「宇宙」の状況:「宇宙」脅威の増大

- 中国は近年、衛星打ち上げの増加が顕著であり、2012年からの12年間で約5.9倍に急増
- 中露によるASAT実験のほか、GPSに対する妨害や宇宙システムへのサイバー攻撃など、**宇宙領域における脅威が増大**
- 北朝鮮は2023年5月、8月、11月、2024年5月に衛星打ち上げを目的とする弾道ミサイル技術を使用した発射を強行、2023年11月の発射では、北朝鮮が発射した物体が地球を周回していることを確認



出典: 新華社通信

中国による観測衛星「AISat-3A」の打ち上げ



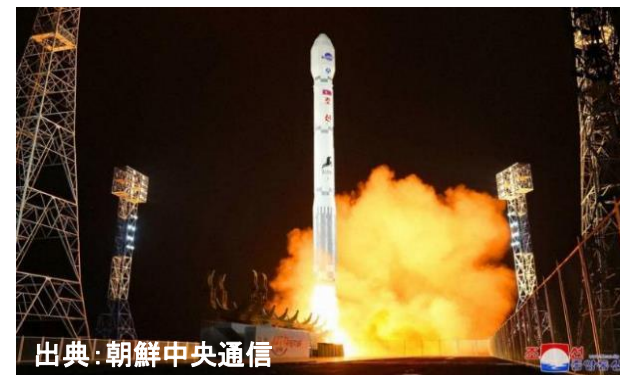
出典: COMSPOC

ロシアによるASAT実験



出典: BBC

欧州委員長搭乗機へのGPS妨害



出典: 朝鮮中央通信

「軍事偵察衛星」発射時に北朝鮮が公表した画像



3 我が国周辺の安全保障環境：中国

- 中国の公表国防予算は、速いペースで増加（30年間で約27倍、10年間で約2倍）
- 継続的に高い水準で国防費を増加させ、軍事力の質・量を広範かつ急速に強化

中国の公表国防予算の推移

戦略三文書策定時（2022年度）からの
国防費・防衛関係費の伸び

中国 約**15兆4,000億円**
(約4,590億元)
日本 約**3兆6,000億円**

約**40兆1,000億円**
(約1兆9,095億元)

公表国防費額
(円換算)

10年前の水準（現在は約2倍）

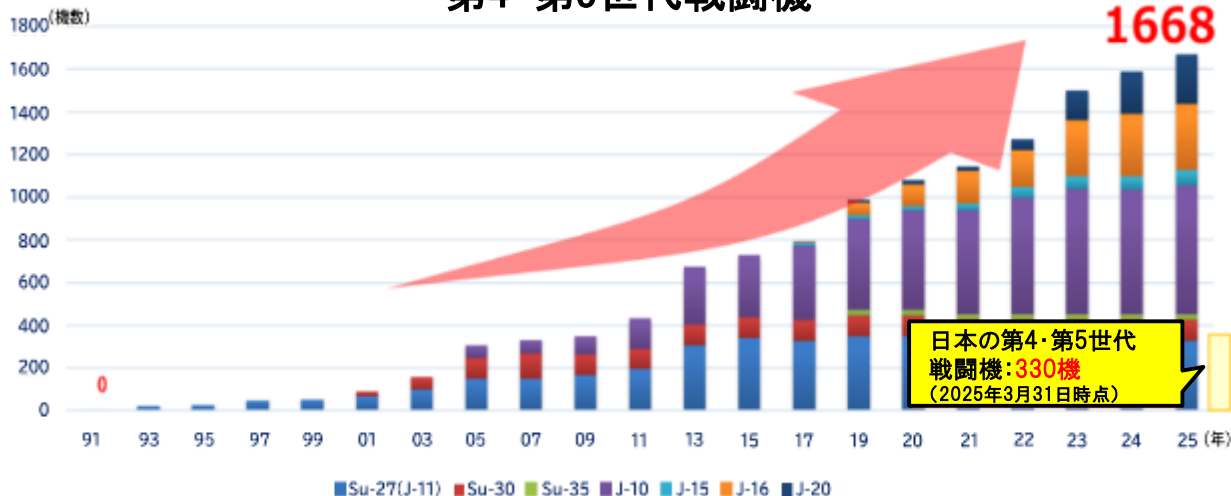
日本の2026年度防衛関係費
(防衛予算案)は
約**8兆8,000億円**

20年前の水準（現在は約7倍）

30年前の水準（現在は約27倍）

戦略三文書策定

第4・第5世代戦闘機



出典: 産経新聞

DF-41大陸間弾道ミサイル
最大射程: 11,200km



出典: 新華社通信

DF-17準中距離弾道ミサイル
最大射程2,000km



北京を中心とする弾道ミサイルの射程（イメージ）



J-20戦闘機



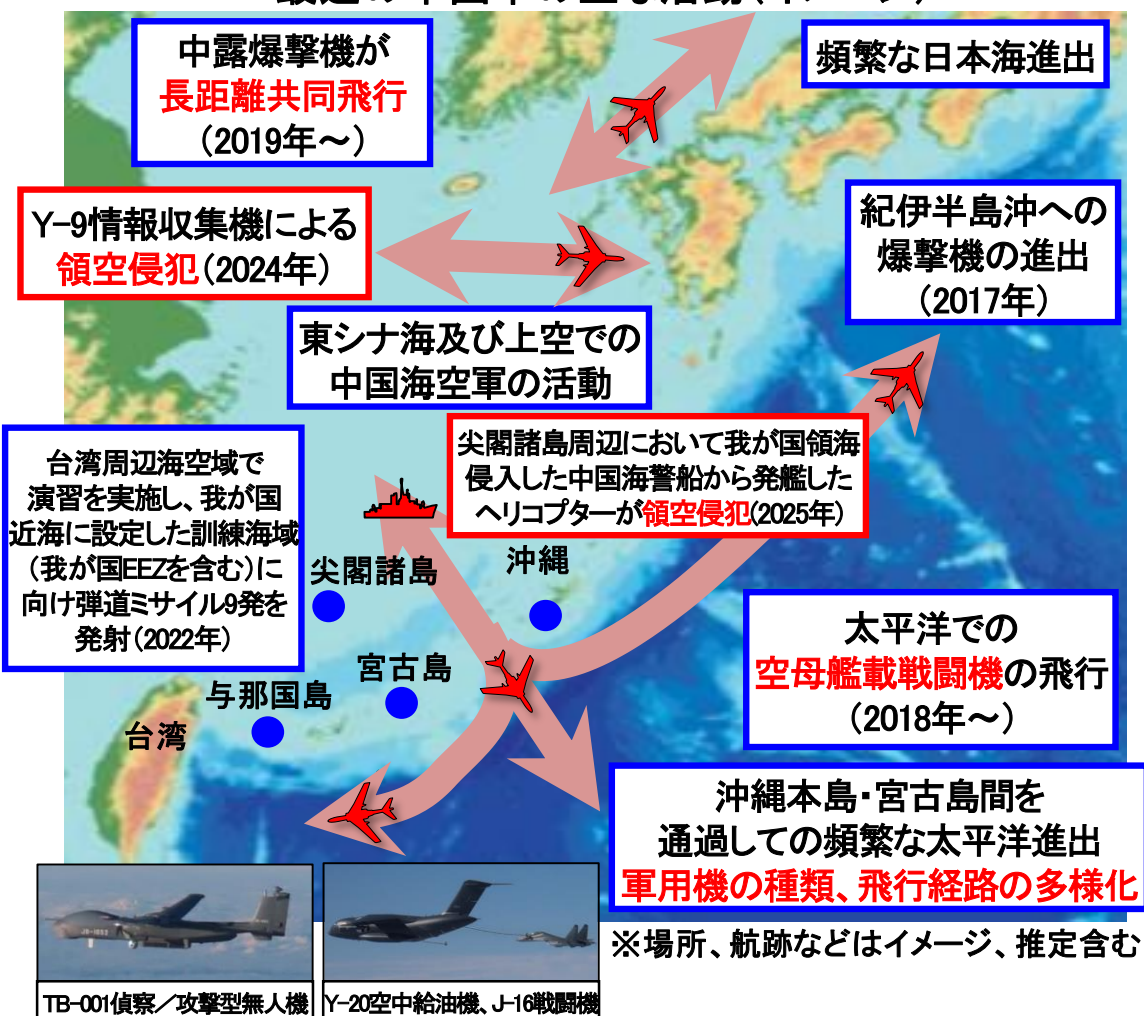
H-6爆撃機



3 我が国周辺の安全保障環境：中国

- 中国軍は、我が国周辺海空域での活動を拡大・活発化
- 2024年や2025年の領空侵犯をはじめとして行動を一方向的にエスカレート
- 台湾に対する軍事的圧力、南シナ海での軍事拠点化、ロシアとの連携強化
- 軍事動向等は、**我が国と国際社会の深刻な懸念事項**であり、**これまでにない最大の戦略的な挑戦**

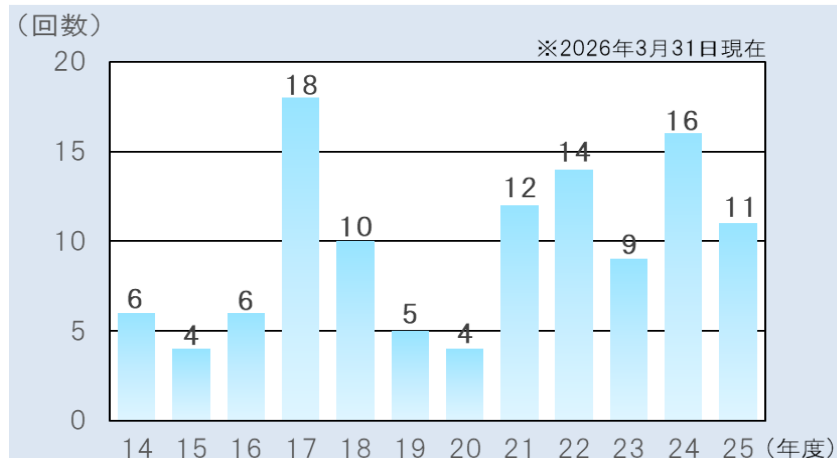
最近の中国軍の主な活動(イメージ)



中国海警局ヘリによる領空侵犯(2025年5月)尖閣諸島周辺



中国軍機の沖縄・宮古島間通過公表回数(年度別)



出典：令和7年版防衛白書、防衛省HP、統幕HPを基に作成



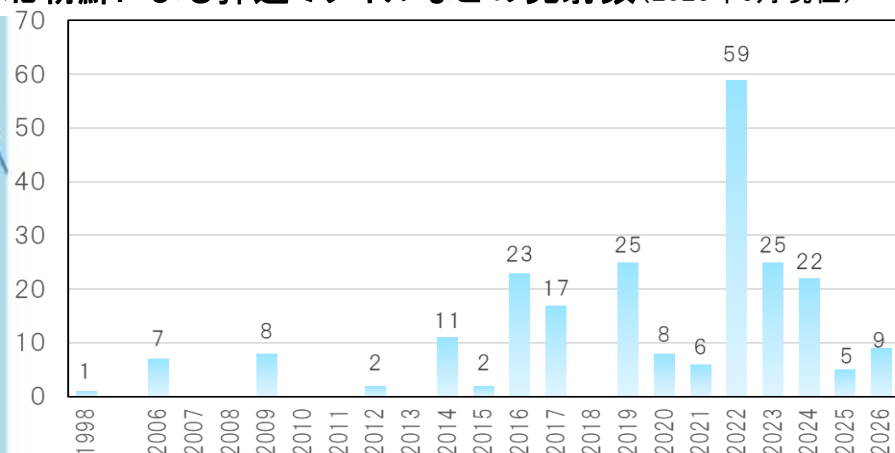
3 我が国周辺の安全保障環境：北朝鮮

- 北朝鮮の究極目標は「体制維持」とみられ、米軍及び韓国軍の通常戦力や、核を含む米国の脅威に対抗するためには、独自の核抑止力構築が不可欠と認識。このため、北朝鮮は、核兵器とともに、その運搬手段である弾道ミサイルの開発を推進
- 我が国を射程に収める弾道ミサイルに核兵器を搭載し、我が国を攻撃する能力を保有
- 低空を変則軌道で飛翔可能な短距離弾道ミサイルの運用能力を向上させ、様々なプラットフォームから発射することで、兆候把握・探知・迎撃を困難にするなど、より実戦的なミサイル戦力を拡充
- ロシアのウクライナ侵攻に関連し、ロシアに弾道ミサイル等の供与や兵士派遣を行うなど、ロシアとの軍事協力を強化
- 北朝鮮の軍事動向は、我が国の安全保障にとって、従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威

北朝鮮の弾道ミサイルの射程



北朝鮮による弾道ミサイルなどの発射数(2026年6月現在)



「極超音速ミサイル」の発射時(2025年1月)に北朝鮮が公表した写真
【出典：朝鮮中央通信】



3 我が国周辺の安全保障環境：北朝鮮

ミサイル関連技術の向上

発射の秘匿性・即時性向上

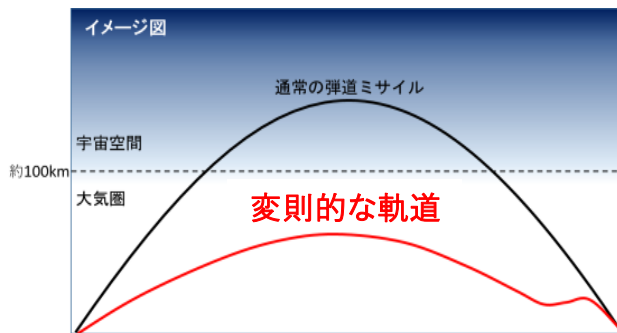


- ◆ 様々なプラットフォームからの発射
(任意の地点からの発射・隠蔽が可能)
- ◆ 固体燃料化
(液体に比べ、保管や取扱い等が容易)

⇒発射の秘匿性・即時性を追求

BMD突破能力の向上

- ◆ 低空を変則的な軌道で飛翔可能な弾道ミサイルの開発
- ◆ 「極超音速滑空飛行弾頭」の開発



⇒迎撃を困難にし、ミサイル防衛網突破を企図

長射程ミサイルの開発



ICBM級「火星17」※
(射程15,000km以上)

ICBM級「火星18」※
(射程15,000km以上)

ICBM級「火星19」※
(射程15,000km以上)

※弾頭重量等による



- ◆ 「火星19」など射程15,000km以上(平壤から発射)の場合、
米国全土が含まれる。

⇒開発を進展させた場合、**米国に対する抑止力を確保したと一方的に認識し、軍事的挑発の増加・重大化につながる可能性も**

ミサイル運用能力の向上

- ◆ 複数発の同時発射



複数発の弾道ミサイル発射
(2024年5月)



- ◆ 発射間隔が1分未満の発射



- ◆ 弾道ミサイルを異なる場所から発射し、
特定の目標に命中させることを追求

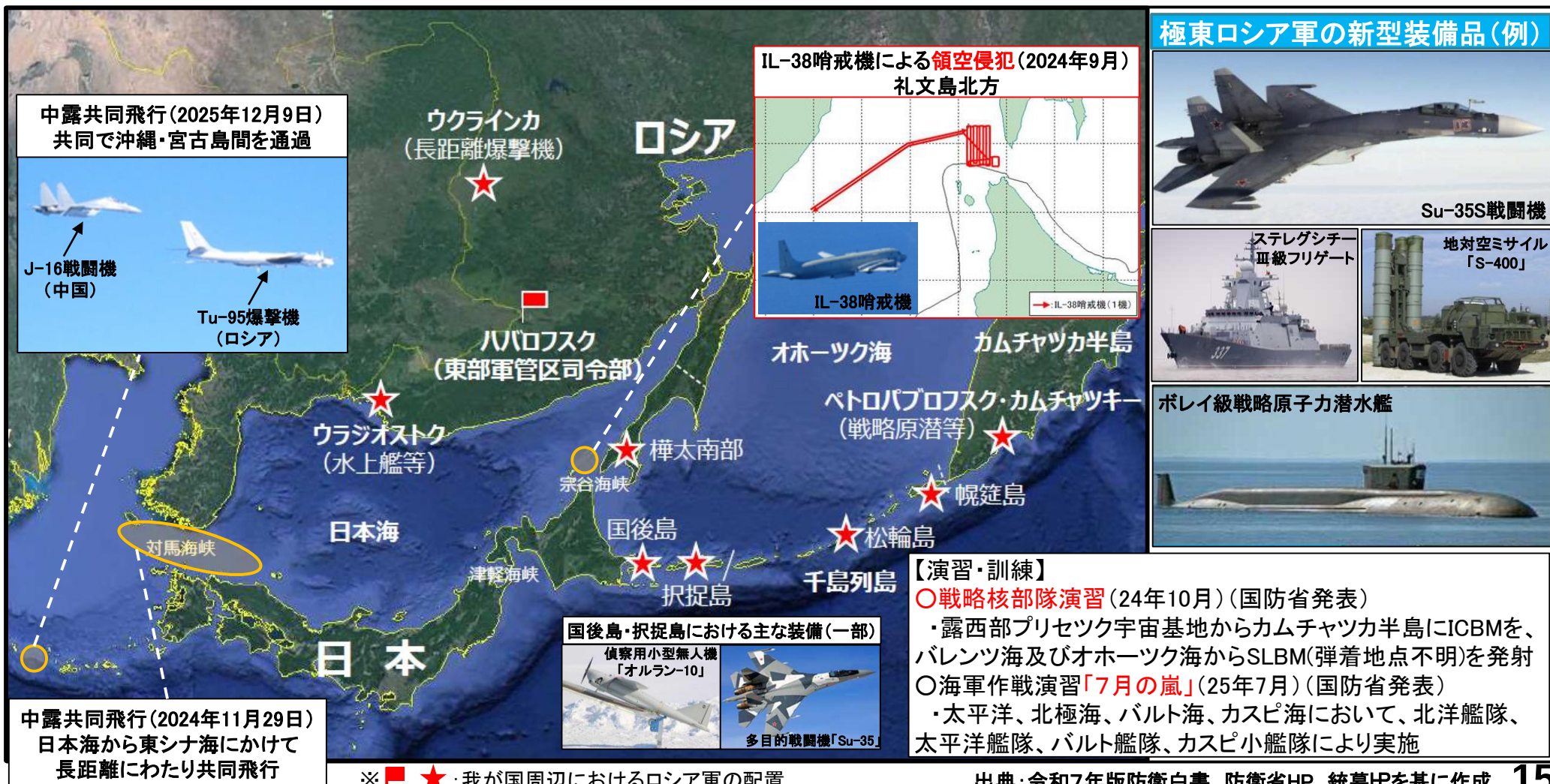


⇒ミサイル関連技術の向上のみならず、**飽和攻撃**といった**実戦的なミサイル運用能力の向上**を企図している可能性



3 我が国周辺の安全保障環境：ロシア

- プーチン大統領は、「強い国家」や「影響力ある大国」を掲げ、ロシアの復活を追求
- 戦略核兵器の近代化に取り組む姿勢を明確化
- 我が国への**2024年領空侵犯**、我が国周辺における**新型装備の導入**や**演習**など**活発な活動を継続**
- ロシアの軍事動向は、**中国との戦略的な連携**と相まって**安全保障上の強い懸念**

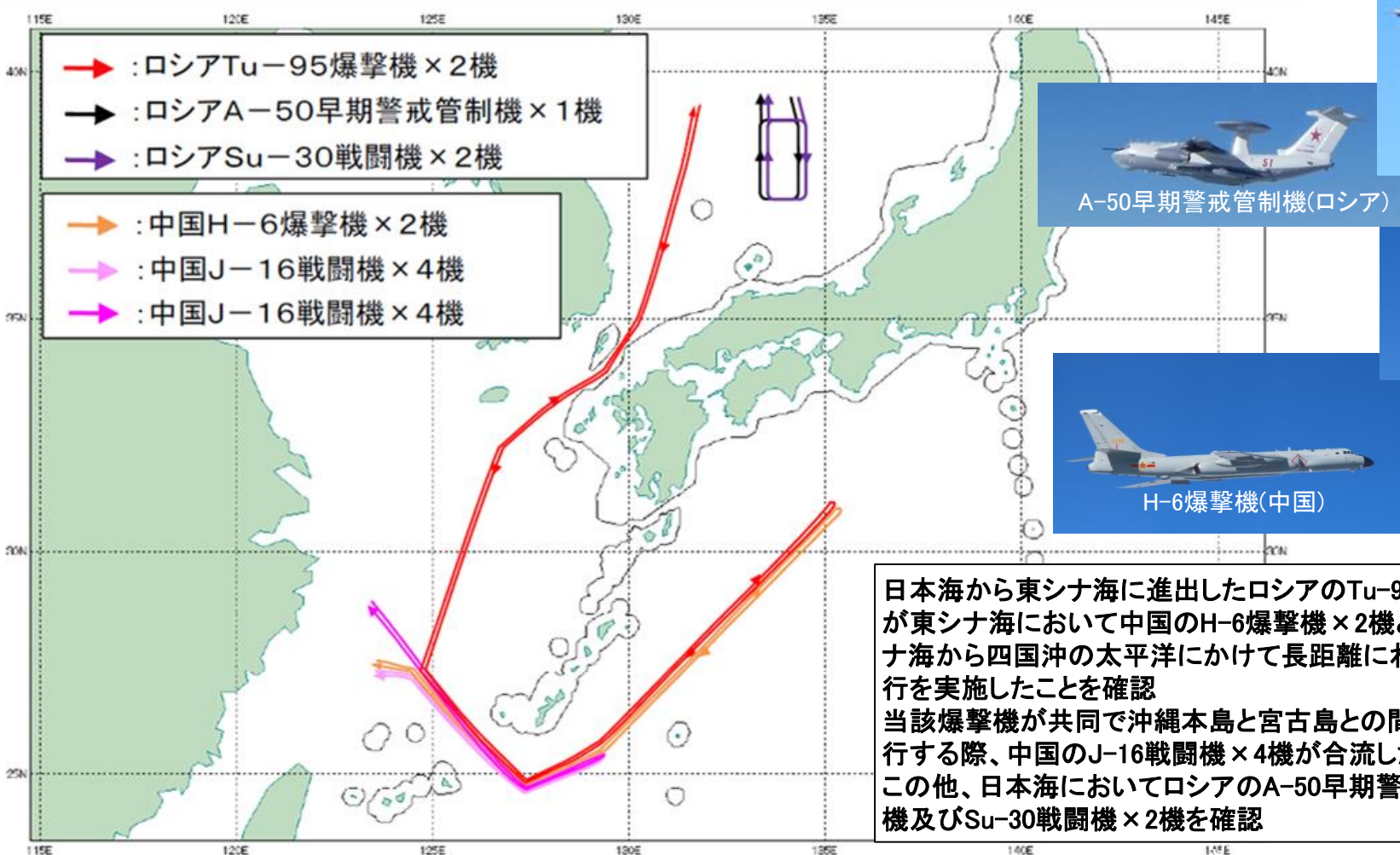




3 我が国周辺の安全保障環境：中露共同飛行

- 2019年以降、**中露両国は爆撃機の共同飛行**を日本海、東シナ海、太平洋などで実施
- **相手国への相互着陸**や**戦闘機の随伴飛行**を実施する等、着実に連携を強化
- 2023年3月の中露共同声明で定期的な実施が明記

中国軍機及びロシア軍機の動向(2025年12月9日)



日本海から東シナ海に進出したロシアのTu-95爆撃機×2機が東シナ海において中国のH-6爆撃機×2機と合流後、東シナ海から四国沖の太平洋にかけて長距離にわたる共同飛行を実施したことを確認
当該爆撃機が共同で沖縄本島と宮古島との間を往復して飛行する際、中国のJ-16戦闘機×4機が合流したことを確認
この他、日本海においてロシアのA-50早期警戒管制機×1機及びSu-30戦闘機×2機を確認



II

航空防衛力の意義、航空自衛隊の任務等

- 1 航空自衛隊の任務と行動
- 2 航空防衛力の特徴
- 3 航空自衛隊の編成



1 航空自衛隊の任務と行動

自衛隊法 第3条【自衛隊の任務】抜粋

- 我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つため、我が国を防衛
- 必要に応じ、公共の秩序維持等
- 航空自衛隊は主として空において行動



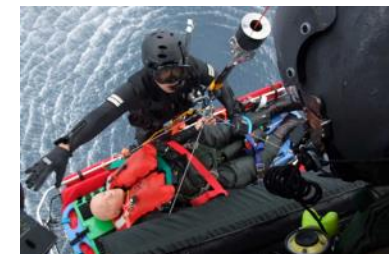
対領空侵犯措置

自衛隊法 第6章【自衛隊の行動】抜粋

- 防衛出動(第76条)
- 国民保護等派遣(第77条の4)
- 治安出動(第78条、第81条)
- 自衛隊の施設等の警護出動(第81条の2)
- 海上における警備行動(第82条)
- 海賊対処行動(第82条の2)
- 弾道ミサイル等に対する破壊措置(第82条の3)
- 災害派遣(第83条)、地震防災派遣(第83条の2)
- 原子力災害派遣(第83条の3)
- 領空侵犯に対する措置(第84条)
- 在外邦人等の保護措置、輸送(第84条の3、第84条の4)
- 国際緊急援助活動、国際平和協力業務等(第84条の5)



弾道ミサイル等に対する破壊措置



災害派遣

自衛隊法 第8章【雑則】抜粋

- 運動競技会に対する協力(第100条の3)
- 国賓等の輸送(第100条の5)



在外邦人等の輸送、国際緊急援助活動



1 航空自衛隊の任務と行動

航空自衛隊は、平時から有事まで、**空と宇宙を守る唯一の存在**

陸

海

空と宇宙

【有事】

防衛力

陸上自衛隊



自衛官：約15万人

海上自衛隊



自衛官：約4.5万人
主要艦艇：約140隻

航空自衛隊



自衛官：約4.7万人
主要航空機：約450機



SSALレーダー



衛星妨害状況把握装置

【平時】

警察力

警察

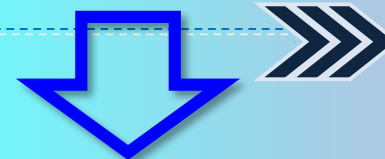


警察官等：約26万人

海上保安庁



人員：約1.5万人
船舶：約480隻



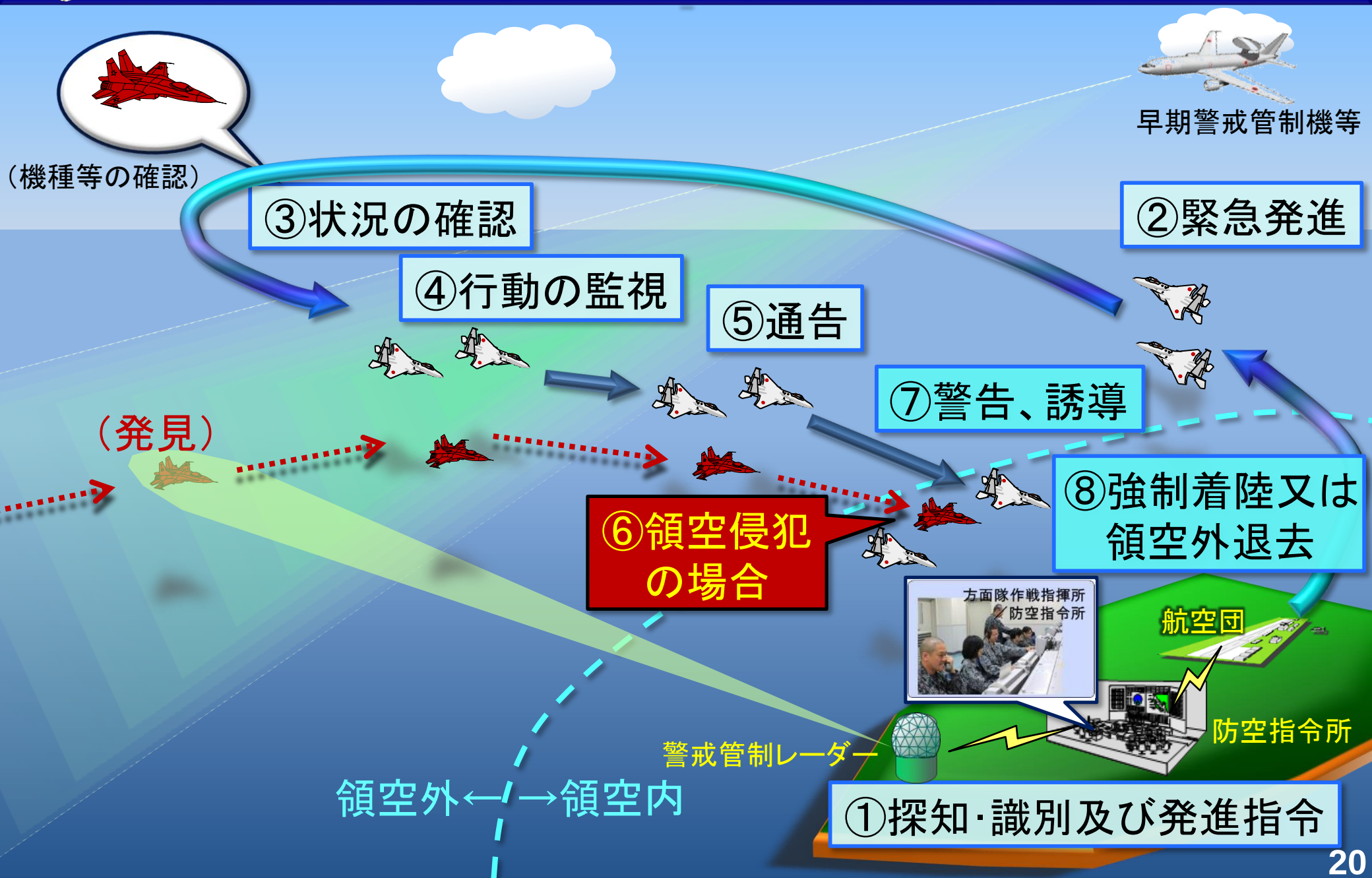
警察機関では対応が困難との事情から、その実効性等も踏まえ、**空自が対領空侵犯措置を実施**

宇宙の安定的利用を確保するため、関係機関等と連携し、**空自が宇宙領域把握を実施**

➤ **航空自衛隊は、平時・有事問わず航空及び宇宙領域における日本代表**



領空侵犯に対する措置 (隊法84条)

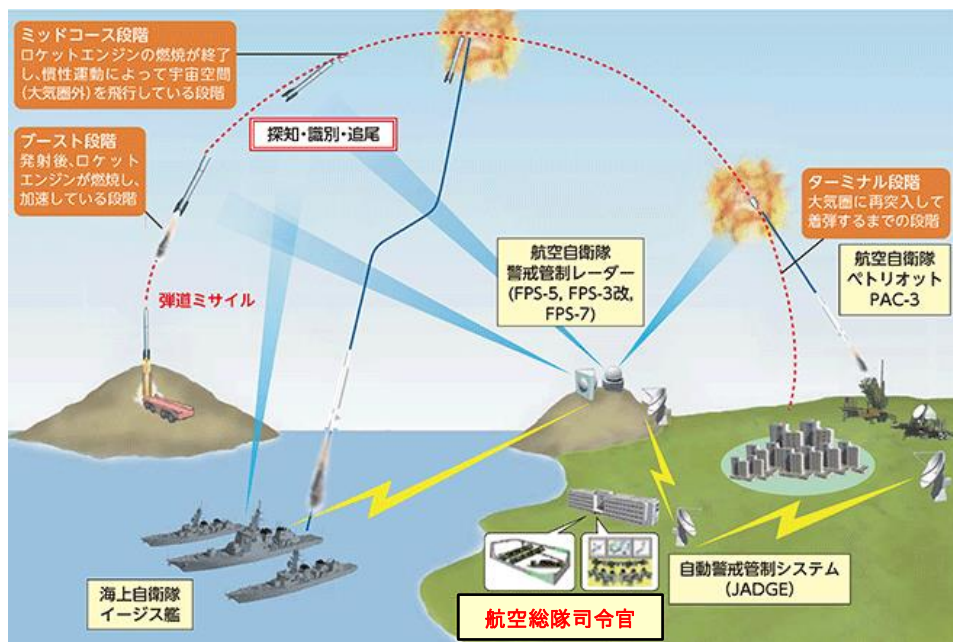




弾道ミサイル等に対する破壊措置 (隊法82条の3)

➤ 統合作戦司令官の一元的な指揮のもと、**航空総隊司令官**が**陸・海・空**の関係部隊を**一部指揮**し、弾道ミサイル等へ対処

BMD 整備構想・運用構想



指揮系統のイメージ



BMD (Ballistic Missile Defense) : 弾道ミサイル防衛



災害派遣(第83条)

航空自衛隊が実施した災害派遣活動(2025年度)



長崎県対馬東方沖の医療搬送用ヘリ捜索(4月6日)



沖縄県大東島水害に伴う物資の空輸(8月1日)



東京都八丈島の災害に伴う車両の空輸(10月14日)





災害派遣(第83条)

急患空輸(2025年度)



口之島～鹿児島(UH-60J)



船舶(那覇南東約226NM)～那覇(UH-60J、U-125A)



中通島～大村(UH-60J)



那覇南東約217NM～那覇(UH-60J、U-125A)

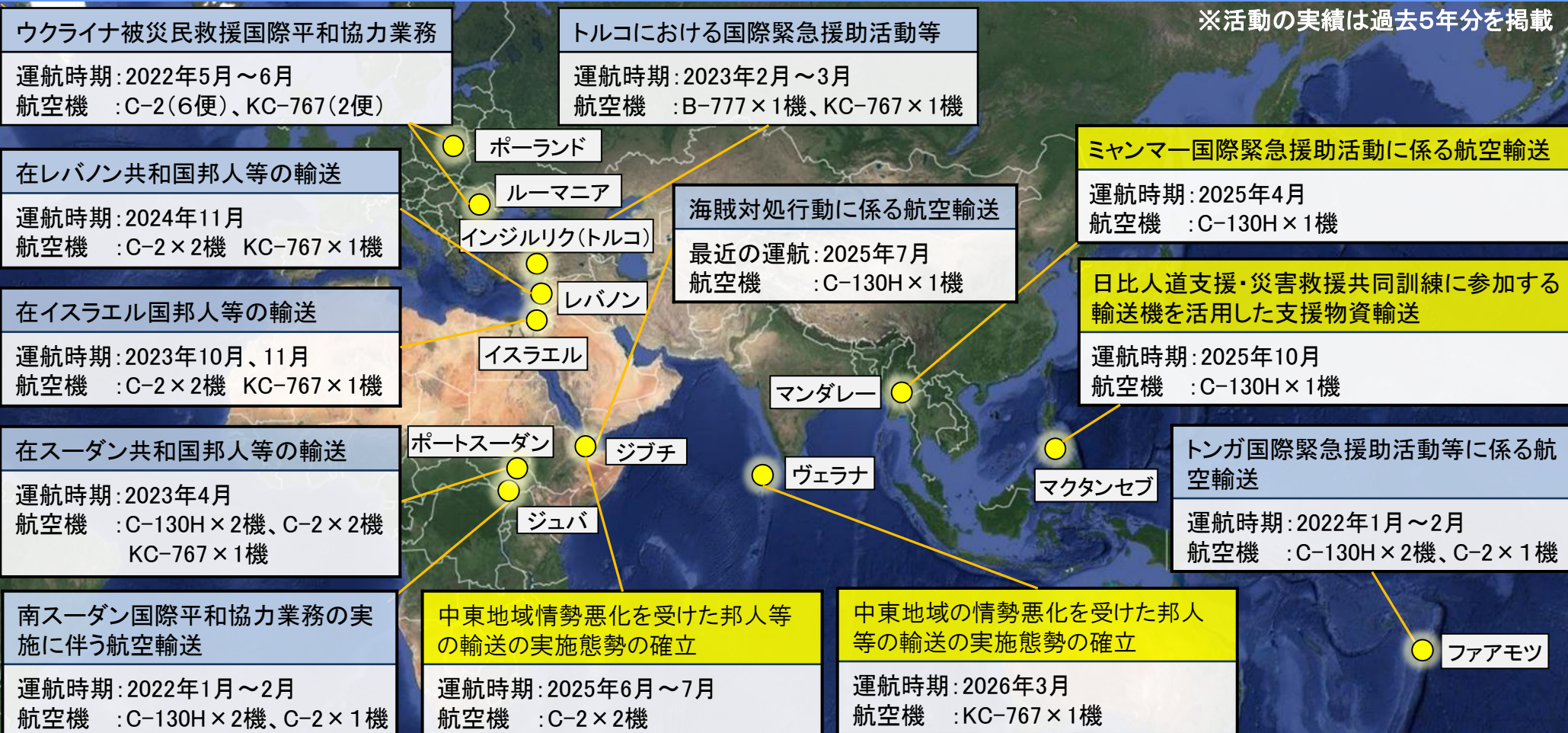
活動内容	活動規模(空白)	
患者輸送	航空機(UH-60J、U-125A、C-2、C-130H)	延べ 27回



在外邦人等の輸送、国際緊急援助活動等（第84条の4等）

- 1992年、初の国際平和維持活動となる、カンボジア国際平和協力業務を皮切りに、**30年以上にわたり、航空輸送任務を中心に数々の国際緊急援助活動、在外邦人等の輸送等を実施**
- 2025年4月にミャンマーで発生した地震に伴う被害に関し**国際緊急援助活動に必要な物資を輸送**
- 中東情勢に鑑み、邦人等の輸送が必要になった場合迅速に対応できるよう外務省から依頼を受け、**2025年6月にジブチ共和国、2026年3月にモルディブ共和国へ輸送機等を派遣、待機**

※活動の実績は過去5年分を掲載





国際緊急援助活動等 (第84条の5)

ミャンマー連邦共和国における国際緊急援助活動等 (2025年4月)

➤ 国際緊急援助活動に必要な医療資機材等の輸送活動を実施



C-130輸送機への医療資機材等の搭載



C-130輸送機による医療資機材等の輸送開始



医療資機材等の荷下ろし



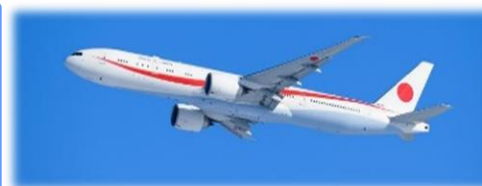
医療資機材等をJICAに引き渡し



国賓等の輸送 (第100条の5)

- 1993年以降、特別輸送機による国賓等の輸送を実施
- 2019年4月、B-777へ機種更新
- 国賓等の輸送は、通算で383回
(B-747:318回、B-777:65回)
- 101カ国(289都市)を訪問

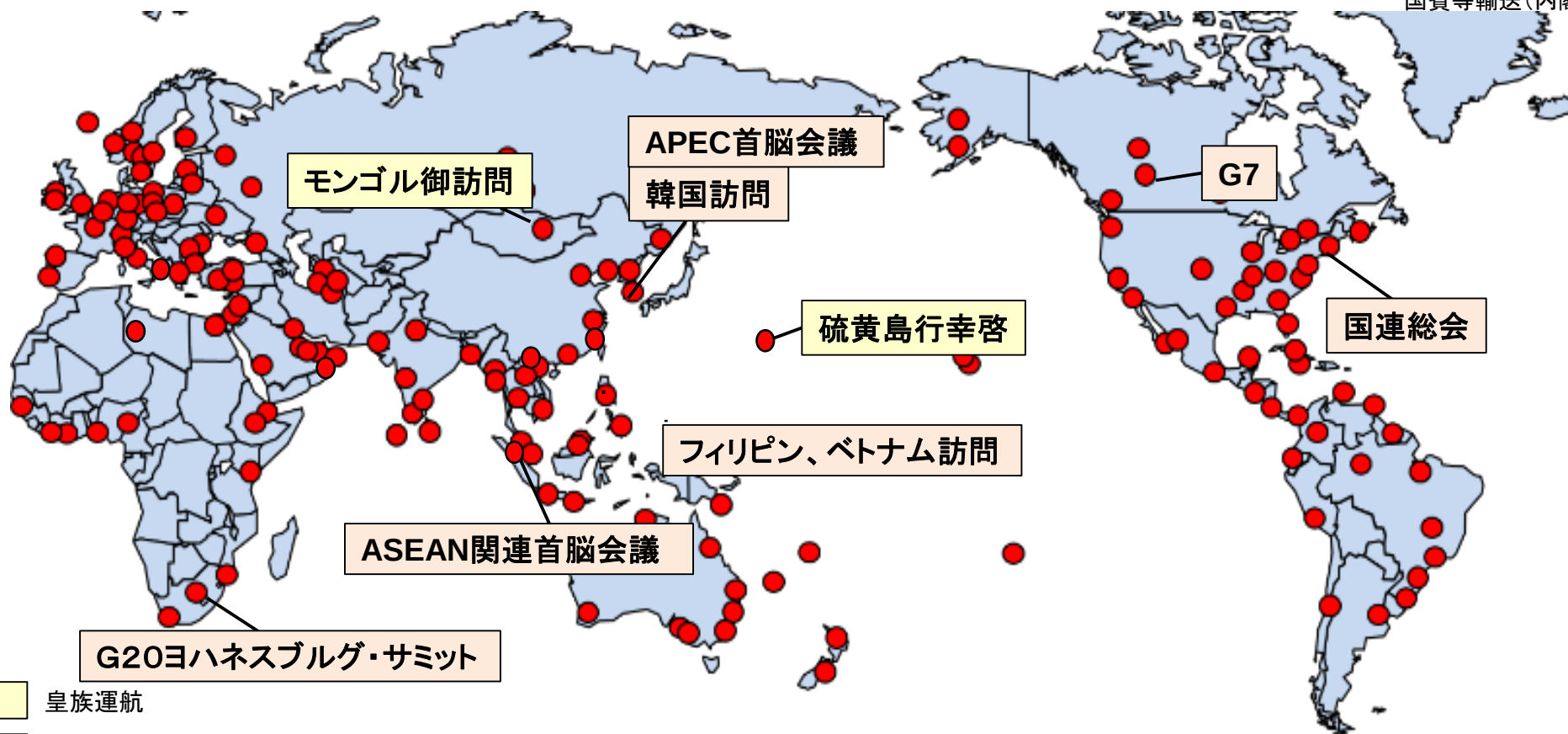
注: 2026年2月25日現在



B-777



国賓等輸送 (内閣総理大臣)



- 皇族運航
- 内閣総理大臣運航



2 航空防衛力の特徴

航空防衛力の意義

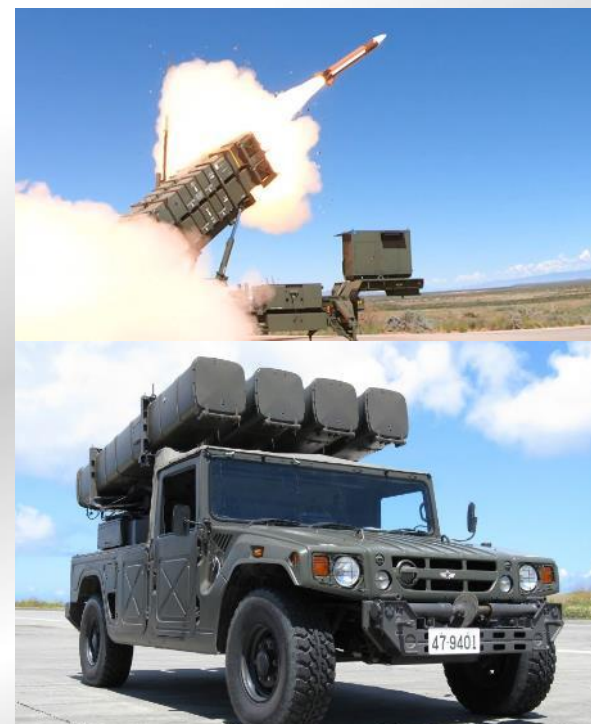
航空機、レーダー、ミサイル等を主体とした、国家が保有する航空に関する防衛力



戦闘機部隊



航空警戒管制部隊



地对空誘導弾部隊

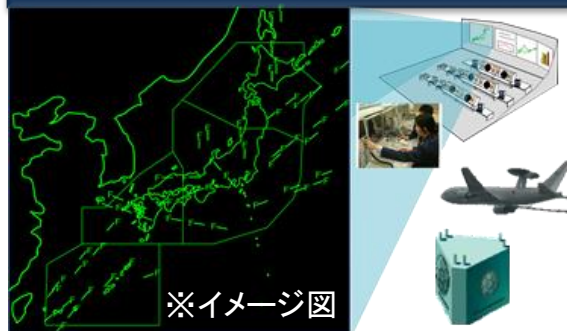


2 航空防衛力の特徴

高い即応性・機動性



優れた監視能力



天象・気象の影響



高い柔軟性・多様性



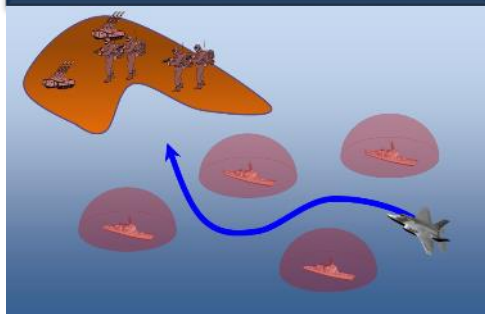
優れた指揮・統制・通信能力



地上では脆弱



高い突破力・生存性



精密な対処能力



防衛力造成に長期間

装備品等取得

人材育成





3 航空自衛隊の編成

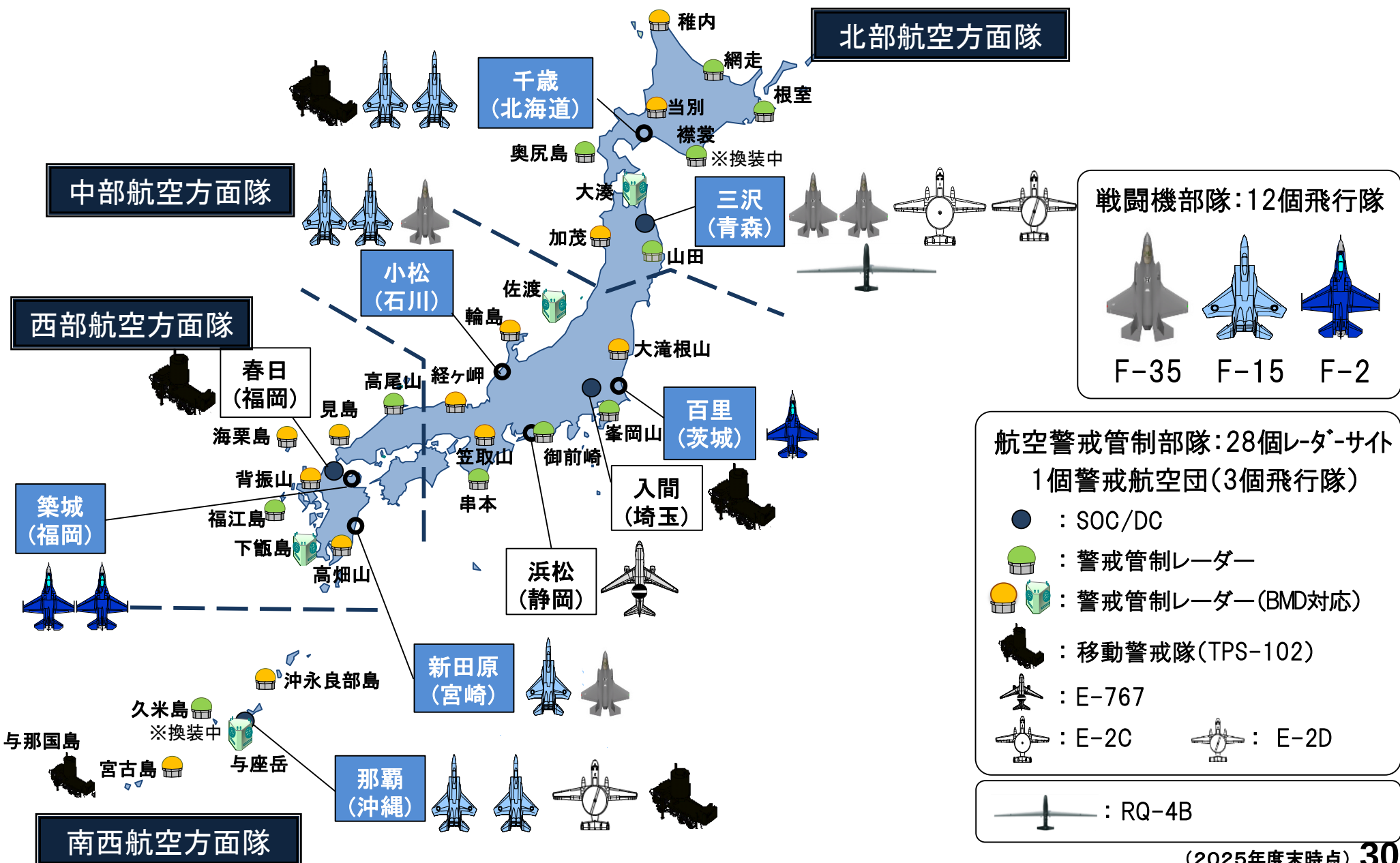


航空自衛隊定員: 約50,000名 (うち事務官等約2,800名)

注: 2025年度末定員、四捨五入により符合しない場合あり。



3 航空自衛隊の編成(航空総隊)





3 航空自衛隊の編成(航空総隊)



迎撃ミサイル発射の状況



器材展開の状況



3 航空自衛隊の編成(航空総隊)

航空救難部隊: 10個救難隊

U-125A



UH-60J



ヘリコプター空輸部隊: 4個飛行隊

CH-47J





3 航空自衛隊の編成(航空支援集団)





3 航空自衛隊の編成(航空支援集団)



B-777



C-2



KC-46A



KC-767



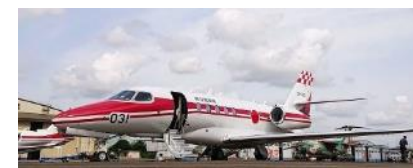
U-4



C-130H



U-125



U-680A

凡例

- 航空輸送部隊
- 空中給油・輸送部隊
- 飛行点検部隊
- 特別航空輸送部隊

- 航空輸送部隊 : 3個飛行隊
- 空中給油・輸送部隊 : 2個飛行隊
- 特別航空輸送部隊 : 1個飛行隊
- 飛行点検部隊 : 1個飛行隊

(2025年度末時点)

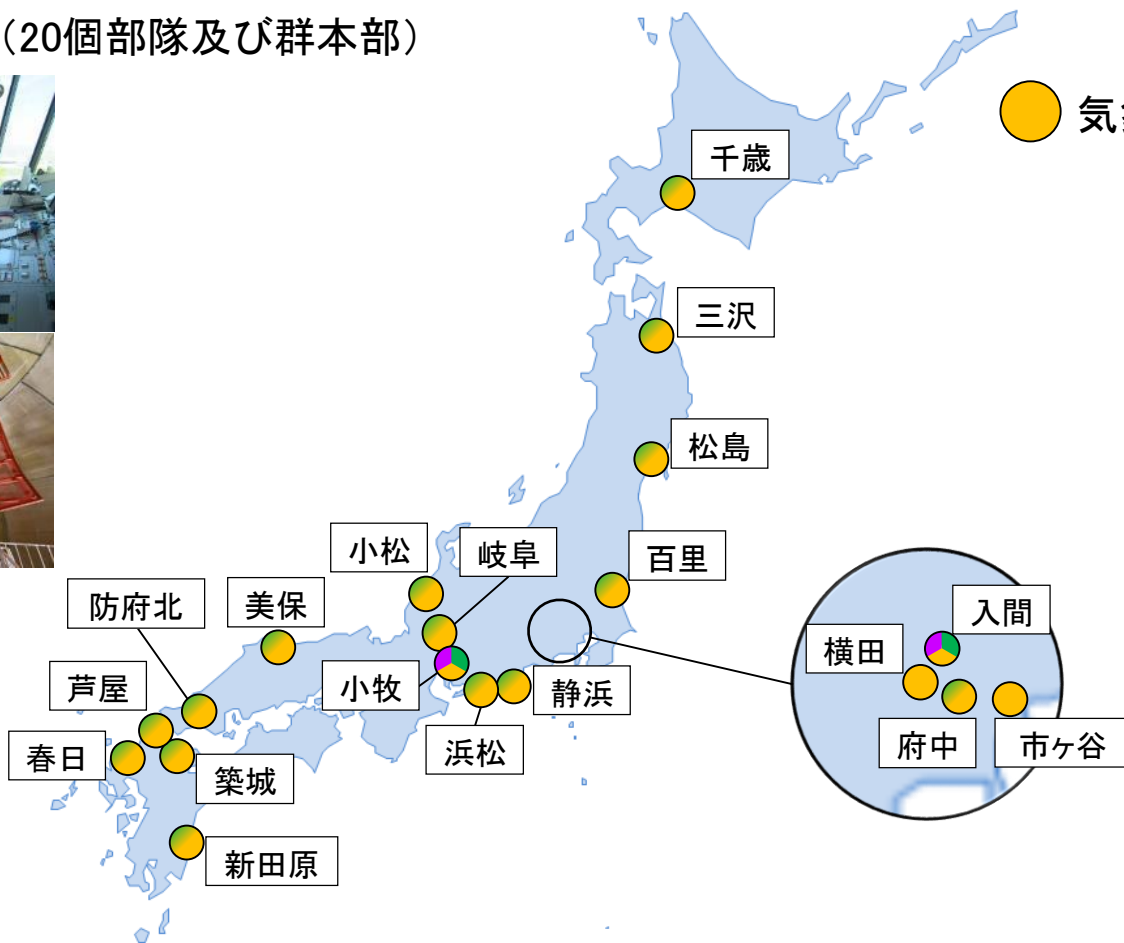


3 航空自衛隊の編成(航空支援集団)

● 保安管制部隊(20個部隊及び群本部)



● 気象部隊(20個部隊及び群本部)



● 航空機動衛生隊





3 航空自衛隊の編成(航空教育集団)



注：破線は、隷属関係はないが校務の掌理については航空教育集団司令官の指揮監督を受けることを示す。



3 航空自衛隊の編成(航空開発実験集団)

航空開発実験集団司令官

航空開発実験集団司令部(府中)

飛行開発実験団(岐阜)

- ・航空装備品等の試験及び評価並びに基礎的運用研究
- ・防衛装備庁に対する協力
- ・防衛装備庁の依頼に基づく領収のための飛行
- ・試験飛行操縦士に対する教育訓練



電子開発実験群(府中)

- ・地上通信電子器材等の試験及び評価並びに基礎的運用研究
- ・防衛装備庁に対する協力
- ・電波環境及び通信の品質に関する技術調査



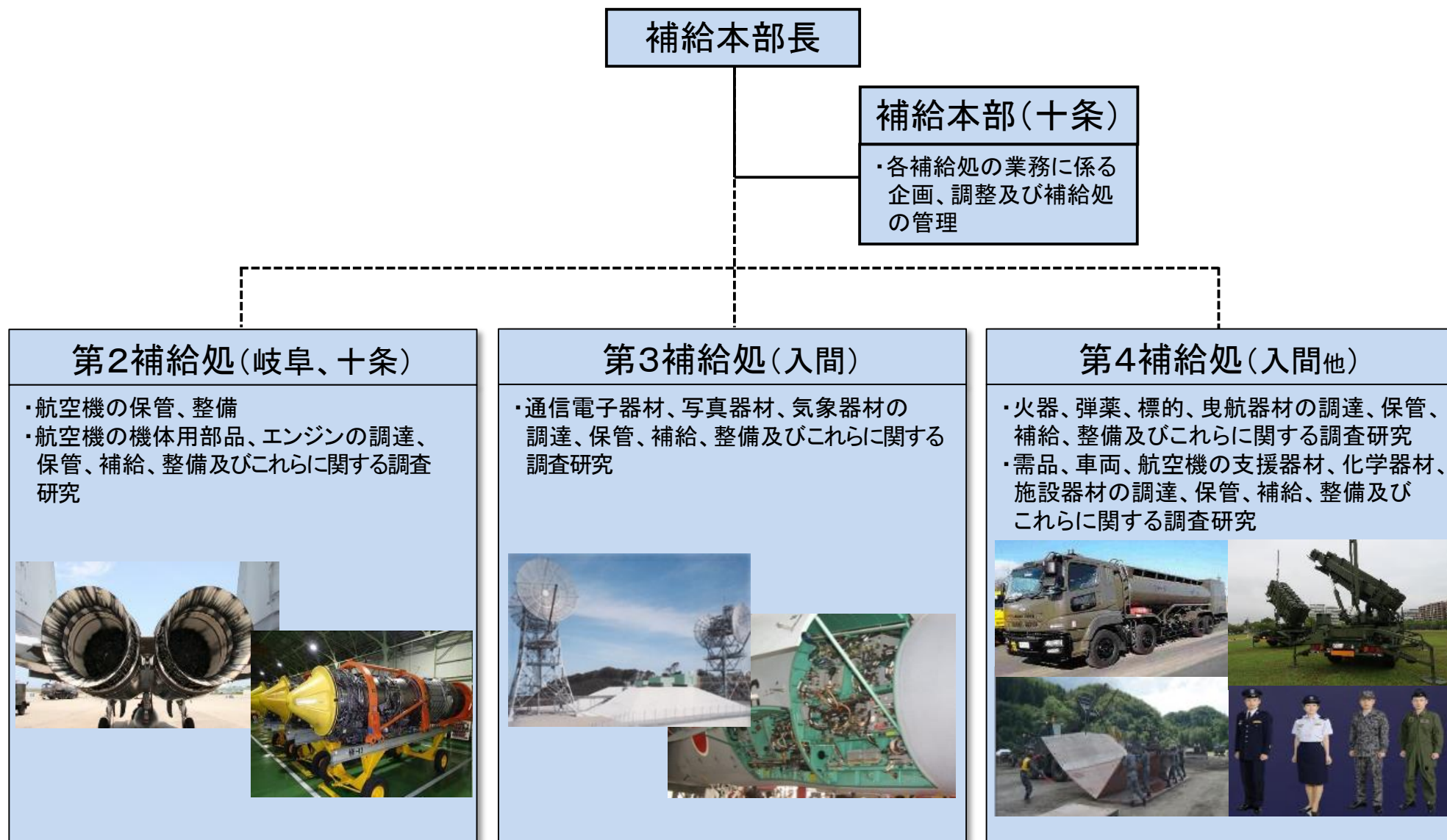
航空医学安全研究隊(入間)

- ・航空医学、心理学及び航空事故防止の各種調査研究
- ・航空医学及び心理学上の実用試験
- ・航空事故調査に関する現地調査等の支援
- ・飛行安全に関する資料の収集、処理及び配布並びに教育
- ・航空医学適性評価及び航空生理訓練
- ・他自衛隊、防衛装備庁等に対する協力





3 航空自衛隊の編成(補給本部等)



注：破線は、補給本部長の指揮監督を受けることを示す。



3 航空自衛隊の編成(宇宙作戦団)

- 2025(令和8)年3月
宇宙作戦団の新編
- 2024(令和6)年3月
宇宙作戦群の改編
- 2023(令和5)年3月
宇宙作戦群の改編

【防衛力整備計画(令和4年12月16日)】

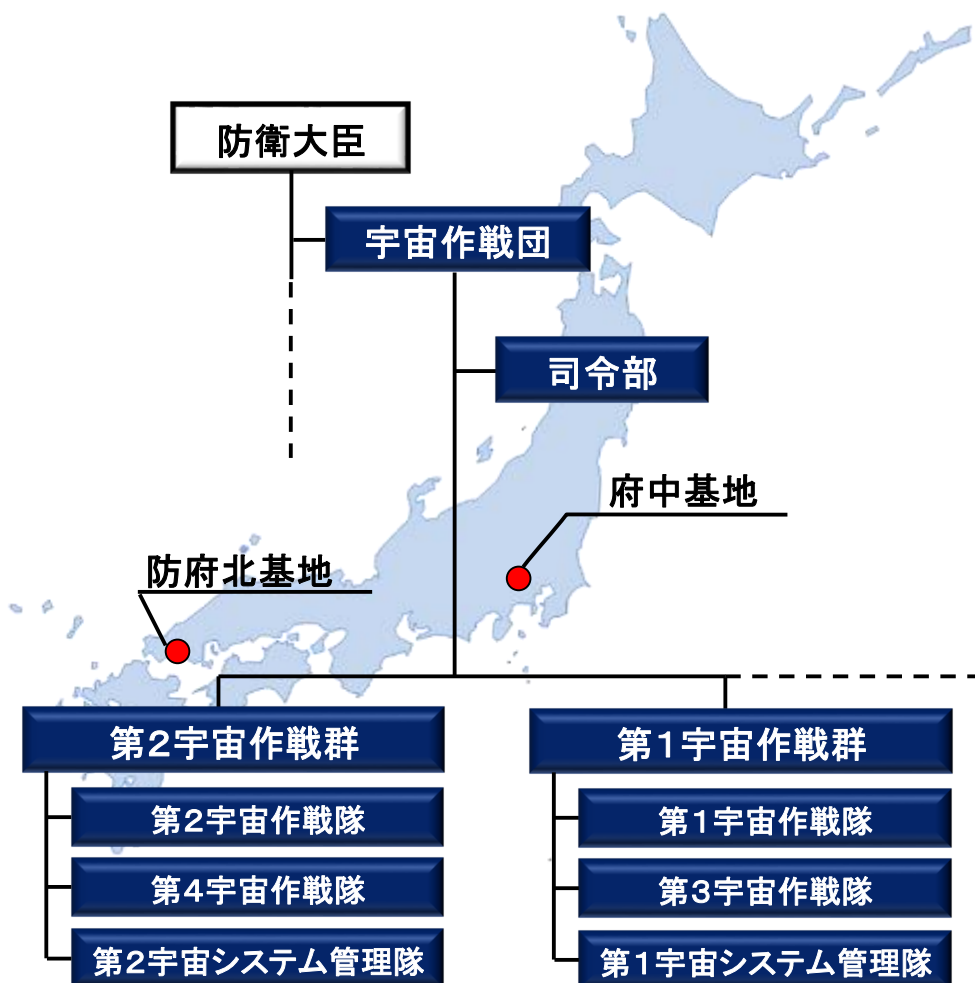
- **将官を指揮官とする宇宙領域専門部隊を新編**
- **航空自衛隊を航空宇宙自衛隊へ**

- 2022(令和4)年3月
宇宙作戦群の新編
- 2020(令和2)年5月
宇宙作戦隊の新編



【平成31年度以降に係る防衛計画の大綱】
航空自衛隊において宇宙領域専門部隊を保持

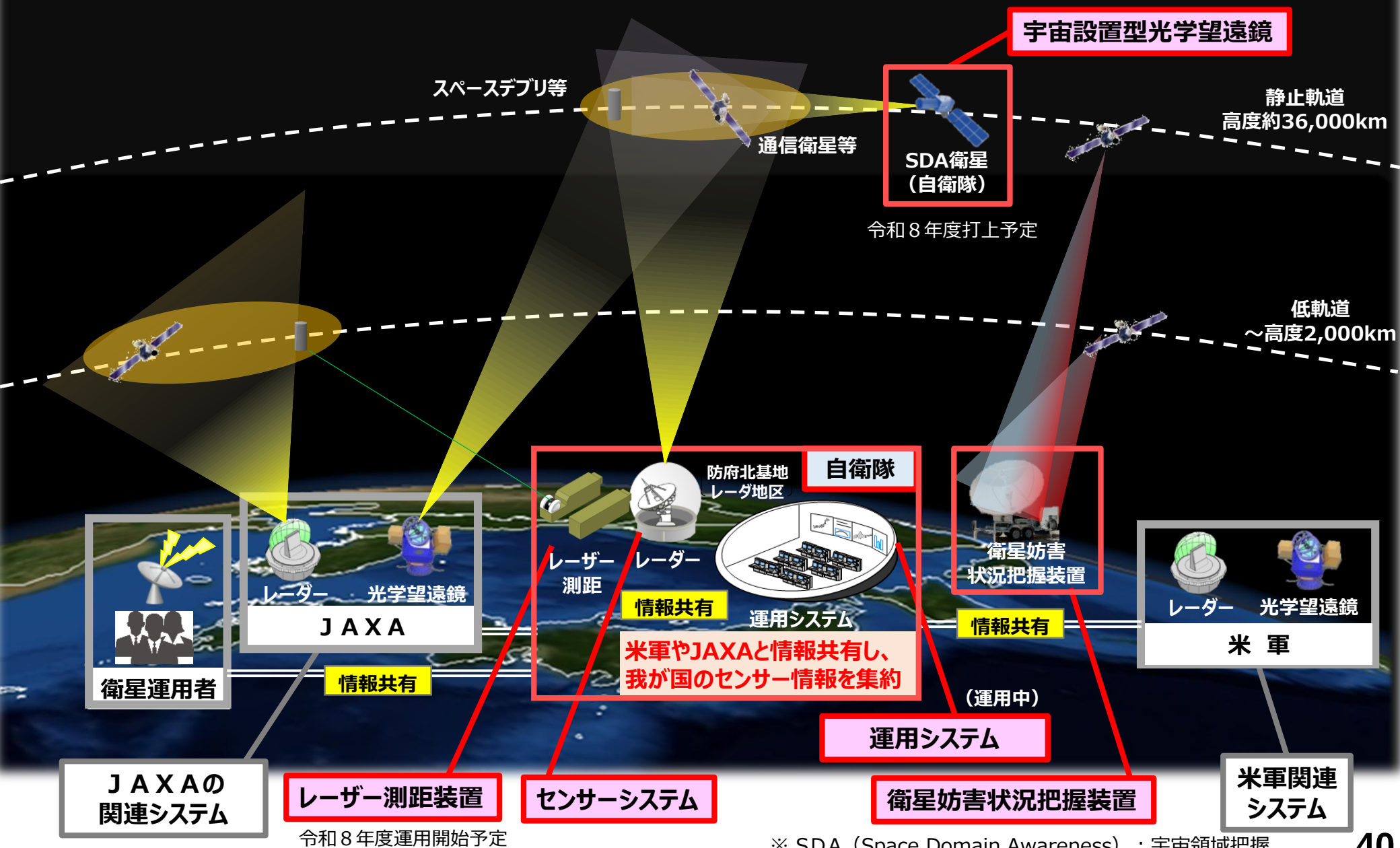
宇宙作戦団新編後の編成



令和7年度末で約670名体制



宇宙領域における空自の態勢整備





III

防衛力の抜本的変革へ向けた取組

- 1 国家安全保障戦略・国家防衛戦略・防衛力整備計画
- 2 航空防衛力発揮の要となる各機能と7つの重視分野の関係
- 3 令和8年度予算 主要事業等
- 4 同盟国・同志国との連携



1 国家安全保障戦略・国家防衛戦略・防衛力整備計画

戦略文書体系

国家安全保障戦略

外交、防衛に加え、経済安保、技術、サイバー、情報等の安全保障に関連する分野の諸政策に戦略的な指針を与えるもの（概ね10年程度の期間を念頭）

国家防衛戦略

防衛の目標を設定し、それを達成するための方法と手段
（概ね10年程度の期間を念頭）

航空自衛隊を航空宇宙自衛隊とする。

防衛力整備計画

保有すべき防衛力の水準

（①概ね10年後の体制及び ②5カ年の経費の総額・主要装備品の整備数量）

将官を指揮官とする宇宙専門領域部隊を新編するとともに、航空自衛隊を航空宇宙自衛隊とする。



7つの重視分野(7つの柱)

➤ **7つの分野を重視して、防衛力の抜本的強化に取り組む。**

●我が国への**侵攻そのものを抑止**するために、遠距離から侵攻戦力を阻止・排除

① スタンド・オフ防衛能力



② 統合防空ミサイル防衛能力



●万一**抑止が破れ、我が国への侵攻が生起した場合**、①②の能力に加え、有人アセット、更に無人アセットを駆使しつつ、水中・海上・空中といった**領域を横断して優越を獲得し、非対称的な優勢を確保**

③ 無人アセット
防衛能力



④ 領域横断
作戦能力



⑤ 指揮統制・
情報関連機能



●**迅速かつ粘り強く活動**し続けて、相手方の侵攻意図を断念

⑥ 機動展開能力・国民保護



⑦ 持続性・強靱性





2 航空防衛力発揮の要となる各機能と7つの重視分野の関係





3 令和8年度予算 主要事業等

スタンド・オフ防衛能力

- ・ スタンド・オフ・ミサイル(JSM・JASSM)取得
- ・ 搭載母機の整備
(F-35Aの取得及びF-2の能力向上改修)



JSM※1
(イメージ)



JASSM※2
(イメージ)



F-35Aの取得



F-2能力向上改修

※1 JSM: Joint Strike Missile

※2 JASSM: Joint Air-to-Surface Stand-Off Missile

統合防空ミサイル防衛能力

- ・ 次世代JADGE(仮称)の整備
- ・ ペトリオット・システムの改修
- ・ FPS-5及びFPS-7の能力向上
- ・ FPS-3からFPS-7への換装



FPS-5



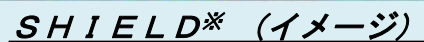
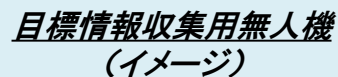
FPS-7



次世代JADGE(仮称) (イメージ)

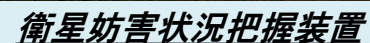


- ・ レーダーサイト防衛用UAVの取得
- ・ 艦艇攻撃用UAVの取得
- ・ 目標情報収集用無人機の取得等



❖ Synchronized, Hybrid, Integrated and Enhanced Littoral Defense

- **宇宙領域における能力強化**
 - **衛星妨害状況把握装置の整備**
 - **航空宇宙自衛隊(仮称)への改編**
 - **宇宙作戦集団(仮称)の新編**





3 令和8年度予算 主要事業等

領域横断作戦能力

- サイバー領域における能力強化
 - ・ リスク管理枠組み対応経費(全機関共同)等
- 電磁波領域における能力強化
 - ・ 電波情報収集機(RC-2)の取得
- 航空領域における能力強化
 - ・ F-35A【再掲】及びF-35Bの取得



電波情報収集機(RC-2)



F-35B

機動展開能力・国民保護

- ・ KC-46Aの取得



KC-46A

持続性・強靱性

- 弾薬の確保
 - ・ 弾薬等の取得を継続して推進 AIM-120 (イメージ)
- 装備品等の維持整備(可動数最大化)
 - ・ 調達リードタイムに応じた部品の適正な取得
- 施設の整備
 - ・ 既存施設の更新、主要司令部等の地下化等
 - ・ F-35受入施設の整備
 - ・ 施設の抗たん化等の必要な施策の推進



AIM-120 (イメージ)

指揮統制・情報関連機能

- ・ 次世代JADGE(仮称)の整備【再掲】



4 同盟国・同志国等との連携

航空自衛隊の防衛協力・交流の方針

自由で開かれたインド太平洋(FOIP)



防衛協力・交流における空自の取組み

「自由で開かれたインド太平洋」の維持・強化に寄与するため、**二国間・多国間**の枠組みを活用し、**ハイレベル交流、実務者交流、共同訓練**等の防衛協力・交流を積極的に推進



4 同盟国・同志国等との連携

ハイレベル交流



部隊間交流・実務者交流



英空軍

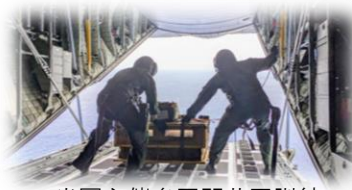


豪空軍



インドネシア空軍

共同訓練



米軍主催多国間共同訓練
モビリティ・ガーディアン25



日豪共同訓練
武士道ガーディアン25



北米及び欧州親善訪問 (Atlantic Eagles)

- 航空自衛隊として初となる戦闘機によるカナダ及び欧州（英・独）への親善訪問を実施することで相互理解を促進し、防衛協力・交流を進展
- 実施期間: 2025年9月14日(日)～同年10月1日(水)



アイルソン



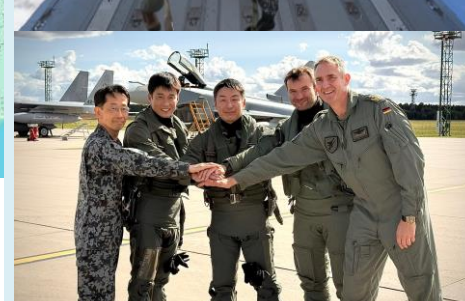
グースベイ



コニングスビー



ラーゲ





韓国空軍ブラック・イーグルスとの防衛交流

- 韓国空軍ブラック・イーグルスを那覇基地に受け入れ、給油支援、部隊間交流を通じて **日韓空軍種間の相互理解を促進し、防衛協力・交流を進展**
- 実施期間：2026年1月28日（水）及び同年2月24日（火）





日米同盟強化のための施策

- **日米安保体制を中核とする日米同盟**は、我が国のみならず、インド太平洋地域、さらには国際社会の平和と安定及び繁栄に大きな役割
- 日米同盟の**抑止力・対処力を強化**するべく、平素から日米の**相互理解**と**意思疎通**を深めるとともに、相互運用性等を向上させるため、**各職種及び各レベルでの協議、共同訓練等を実施**

戦略レベル

ハイレベル協議を通じた
戦略の一致



作戦レベル

各種施策による作戦面での
協力の深化



戦術レベル

共同訓練を通じた戦術面での
相互運用性の向上





日米同盟強化のための施策



日米戦闘機によるエレファントウォーク



米爆撃機との共同訓練



日米高射部隊による実弾射撃訓練



日米滑走路被害復旧訓練



同志国等との共同訓練

➤ 政府、省による「自由で開かれたインド太平洋」に係る活動への寄与の観点から、航空防衛力を活用しつつ**インド太平洋地域の各国及び同地域への関与を強化している国との連携を強化**

日独西共同訓練 



日仏共同訓練 



日伊共同訓練
(ライジング・サン) 



日米豪共同訓練
(コープ・ノース) 



日英共同訓練 



日比人道支援・災害救援共同訓練
(ドウシン・バヤニハン) 



日独西共同訓練



日仏共同訓練



日伊共同訓練
(ライジング・サン)



日米豪共同訓練
(コープ・ノース)



日英共同訓練



日米豪共同訓練
(武士道ガーディアン)



日比人道支援・災害救難共同訓練
(ドウシン・バヤニハン)





同志国等との共同訓練

日米豪共同訓練(武士道ガーディアン25)@三沢基地



日米豪合同記者会見



共同訓練で飛行する参加機



- 「自由で開かれたインド太平洋」の実現に資するため米空軍及び豪空軍との共同訓練を実施
- F-35Aを用いた日米豪3か国による訓練を日本で初めて実施
- 共同訓練を通じ、相互運用性を向上させインド太平洋地域の平和と安定に寄与



同志国等との共同訓練

日比人道支援・災害救援共同訓練(ドウシン・バヤニハン5-25)@フィリピン



物料投下訓練



大量傷病者救護訓練



セブ州沖地震対応のための支援物資輸送

- 日比両国のC-130Hが参加し、物料投下訓練や大量傷病者救護訓練等を実施
- 訓練期間中、セブ州沖地震に関し、救援物資の輸送を実施
- 本訓練及び支援物資の輸送には、**日比円滑化協定(RAA)**が初めて適用



能力構築支援

- 航空自衛隊は、防衛省が実施するASEAN各国等の能力向上に資する**能力構築支援事業**に参加(**国際航空法、航空気象、航空医学、飛行安全、航空救難、航空医療搬送、航空管制、サイバーセキュリティ、WPS**)
- 日ASEAN防衛協力の指針であるビエンチャン・ビジョン2.0の下、日ASEAN空軍種間の信頼醸成を目的とした招へい事業「**プロフェッショナル・エアマンシップ・プログラム(PAP)**」を実施

能力構築支援の具体例



スリランカ

- ・航空救難
- ・航空医療搬送



機動衛生ユニット研修(小牧基地)



救難装備品説明(浜松基地)



ベトナム

- ・航空気象
- ・航空救難
- ・サイバーセキュリティ
- ・飛行安全
- ・国際航空法



移動式気象レーダ装置研修
(府中基地)



フィリピン

- ・航空医学



集合写真(入間基地)



施設研修(入間基地)



ASEAN

- ・WPS
- ・サイバーセキュリティ



日ASEAN WPS 協力プロジェクト
(東京都内)



日ASEANサイバーセキュリティ
協力プロジェクト(東京都内)



能力構築支援



2025.12 スリランカ(浜松) (航空救難)



2025.11 ベトナム(府中) (航空気象)



2025.9 フィリピン(入間) (航空医学)



2025.7 ASEAN(東京都内) (サイバーセキュリティ)



IV

トピックス

- 1 コア・バリュー(大切にすべき価値観)の制定
- 2 航空宇宙自衛隊(仮称)への改編
- 3 第5航空団(新田原基地)第202飛行隊(仮称)の新編
- 4 次期戦闘機の開発への協力
- 5 人的基盤の強化
- 6 ハラスメント防止への取組
- 7 地域との交流・連携



1 コア・バリュー(大切にすべき価値観)の制定

➤令和6年の航空自衛隊創設70周年という節目及び航空宇宙自衛隊(仮称)への改編という組織的な変革の時期に差し掛かることを踏まえ、変革の時代に耐え得る**隊員の精神的な拠り所を明確化**することを目的とし、コア・バリューを制定

コア・バリュー(大切にすべき価値観)

誠 実

(隊員一人ひとりが任務に正しく真心をもって向き合っていく姿勢として)

即 応

(航空防衛力の持つ即応性、機動性といった独特の性質を最大限に発揮することが重要との観点から)

挑 戦

(誰も直面したことのない課題に対し、挑み続け、我々は果敢に取り組んでいくことが不可欠という決意から)



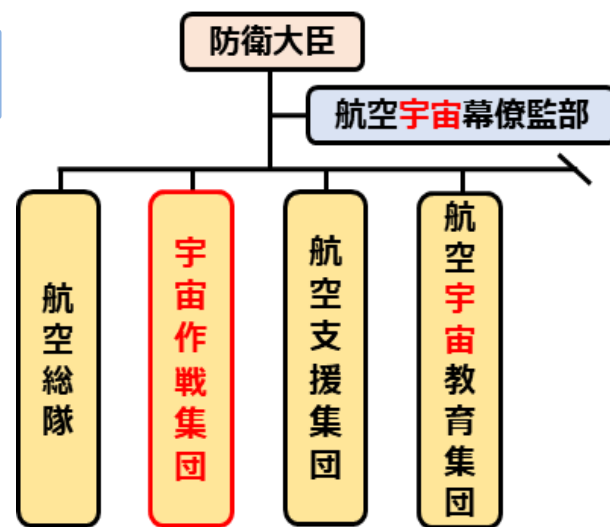


2 航空宇宙自衛隊(仮称)への改編

- 宇宙空間の安定的利用は、軍事作戦上の指揮統制・情報収集の基盤。**通信・観測・測位等の面で国民生活の基盤そのもの**。宇宙領域における軍事作戦は、陸上・海上・航空作戦と同等に重要
- 宇宙空間の安定的利用を確保することを目指し、**令和2年度には宇宙領域専門部隊を新編し、累次にわたり増員を続ける等、宇宙領域における防衛能力を強化**
- 令和8年度には、「宇宙作戦集団(仮称)」を新編、「SDA衛星」の打上げ、SDA能力の強化により、「相手方の指揮統制・情報通信等を妨げる能力」の本格的な運用が可能
- 令和8年度には、航空自衛隊にとって、**宇宙は単に監視活動の対象ではなく、作戦行動を行う領域**となる。

航空自衛隊を「航空宇宙自衛隊(仮称)」へと改編

- 一 自衛隊の名称変更は、**昭和29年の自衛隊創設以来、初めての試み**
- 一 **宇宙空間の安定的利用を確保するとの我が国の決意を内外に示し、もって我が国の抑止力の向上に大きく貢献**



※新編等(赤字)する組織の名称は全て仮称

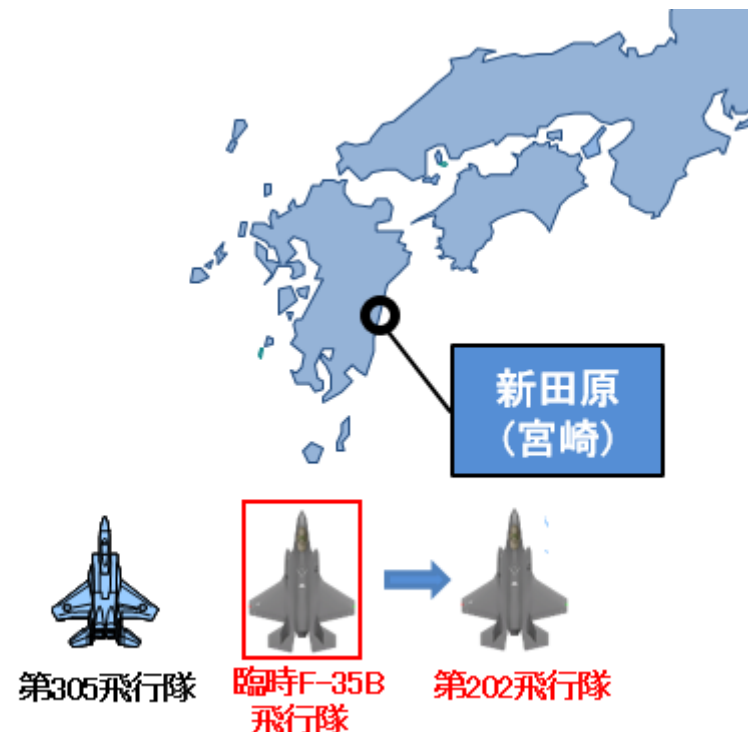


3 第5航空団(新田原基地)第202飛行隊(仮称)の新編

- 新田原基地には、令和7年度から段階的にF-35Bの配備を実施
- 準備段階の部隊として、令和6年度より「臨時F-35B飛行隊」を設置しているところ、令和8年度には、約10機の新田原基地への配備をもって第5航空団(新田原基地)の臨時F-35B飛行隊を整理し、実任務を担う「**第202飛行隊(仮称)**」を新編する予定



F-35B配備記念式典:新田原基地(令和8年2月7日)





4 次期戦闘機の開発への協力

- 数に勝る敵に有効に対処できる能力を保持し、将来にわたって航空優勢を確保・維持できる戦闘機を、2022年12月より英国およびイタリアと共同開発
- 航空自衛隊は、開発主管の防衛装備庁と緊密に連携しつつ、ユーザーニーズを反映させるよう、積極的に開発に参画
- 2024年12月、次期戦闘機開発のための政府間国際機関であるGIGOが設立。GIGOの職員として航空自衛官を英国に派遣

次期戦闘機のイメージ



日英伊の協力





5 人的基盤の強化(人材確保に関する取組み)

隊員の処遇改善

➤防衛力を発揮するためには、人材の確保が不可欠であり、**隊員の処遇改善**について推進中

年 度	項 目
令和5年度	警戒監視業務を実施するレーダーサイト勤務隊員への手当の支給
令和6年度	レーダーサイトで勤務する隊員への手当の支給
	防空指令所等で勤務する隊員への手当の支給
	基地警備等のために深夜勤務する隊員に支給する手当の引上げ
令和7年度	パイロットや航空機整備等の過酷な任務に従事する隊員の処遇改善
	元自衛官採用時の初任給決定基準の見直し
	航空作戦における情報収集に従事する隊員への手当の支給



厳しい環境での勤務①



厳しい環境での勤務②



5 人的基盤の強化(人材確保に関する取組)

定年等自衛官の操縦士の再任用

【操縦士の再任用に係る制度】

➤ 定年再任用

令和4年度に、操縦教官として航空機に搭乗して行う教育訓練の業務を追加

令和5年度に、飛行点検業務を追加

令和7年10月から新たに定年退職後に自衛官としての勤務から一旦離れた者にも拡大

➤ 元自再任用

令和5年度から操縦士(戦闘機を除く。)の再任用開始

定年自衛官(操縦教官)の再任用



定年及び元自衛官(操縦士)の再任用(イメージ)

退職前の経験
退職後の経験を考慮し、操縦業務へ



元自衛官
(操縦士)

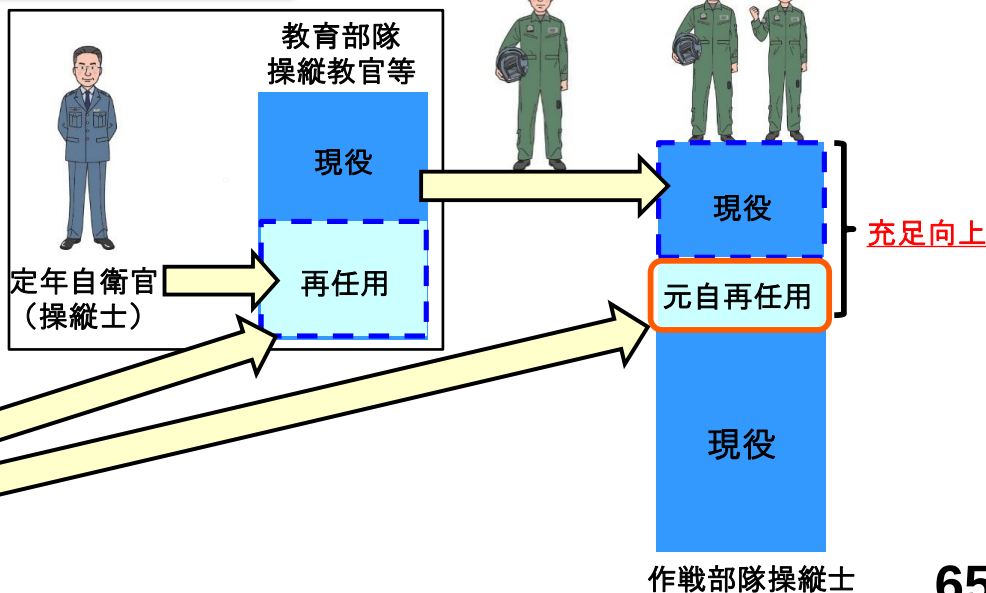
輸送機

練習機

回転翼機

等※

※ 戦闘機を除く。





5 人的基盤の強化(空自における男女共同参画推進等に係る取組)

【女性活躍の推進】

- 平成27年11月、戦闘機操縦者を含む航空自衛隊の**全ての職種**において、女性自衛官の配置制限を解除
- 令和6年度、自衛官候補生の女性採用枠を撤廃し、空自が採用する全ての区分において**女性採用枠を撤廃**
- 本人の意欲、能力、適性に応じた**幅広いフィールドに女性自衛官を配置**

【ワークライフバランス推進等に係る取組】

- 育児・介護等の両立支援制度の理解及び利用促進
- 働き方改革(働く時間と場所の柔軟化)
- 各種休暇の取得推進

育児休業



介護休暇



戦闘機操縦者と航空機整備員



国外での共同訓練



働く時間の柔軟化

- ・早出遅出勤務
- ・フレックスタイム制 等

働く場所の柔軟化

- ・テレワーク
- ・オンライン教育



6 ハラスメント防止への取組

➤有識者会議の提言を真摯に受け止め、**ハラスメントを一切許容しない環境の構築**に向け、積極的な取組を継続



部外講師招へいによるハラスメント防止教育
防府南基地(航空教育隊)令和8年1月15日

ハラスメント防止月間における空自の取組み (令和8年2月1日～2月28日)

- ・ハラスメント・モデル事例による**知識の定着**
- ・ハラスメント防止に関する宣言書の直筆作成による**意識の啓発・向上**
- ・合言葉は「**しない、させない、見逃さない**」

ハラスメント防止に関する宣言書

私は、ハラスメントが、隊員の尊厳や人格を傷つけ、
隊員相互の信頼関係を失墜させ、精強性を揺るがず、
決してあってはならない行為であることを認識し、
次のことを宣言します。

- 1 ハラスメントの定義を正しく理解します。
- 2 大切な仲間を尊重し、絶対にハラスメントを起こしません。
- 3 ハラスメントを目撃した場合は、決って見逃しません。
- 4 被害に遭った隊員には、しっかり寄り添います。
- 5 ハラスメントを一切許容しない組織環境を構築します。

ハラスメントを一切許容しない環境を構築、定着



7 地域との交流・連携

ブルーインパルス展示飛行



➤ブルーインパルスの展示飛行を通じて、自衛隊に対する信頼感等の醸成及び部外広報に寄与

防災訓練への参加



➤防災訓練への参加を通じて、自治体等との連携体制を構築し、相互の災害対処能力向上に寄与

民間空港を利用した航空自衛隊の訓練



➤あらゆる事態において能力を最大限発揮するため、航空自衛隊が多様な空港を使用できるようにしておくことが重要
➤引き続き、関係自治体等に丁寧な説明を行った上で、民間空港を利用した訓練を実施

音楽隊による演奏等



➤防衛省の式典、全国各地での演奏、演奏技術指導により、自衛隊の広報宣伝及び自治体等との良好な関係の構築に寄与



航空自衛隊

Japan Air Self-Defense Force

HP



X



Facebook



Instagram



YouTube

